

「野の花の丘」 便り (9月中旬)

秋の七草

奈良時代の歌人山上憶良が万葉集で詠んだ「萩（ハギ）の花、尾花（オバナ）葛花（クズバナ）、撫子（ナデシコ）の花、女郎花（オミナエシ）また藤袴（フジバカマ）、朝貌（アサガオ）の花」が秋の七草の由来とされています。

ここ「野の花の丘」にも秋の七草がいくつかあります。萩の花（ハギ）、尾花（ススキ）、撫子の花（ナデシコ）、女郎花（オミナエシ）と藤袴の近種であるヒヨドリバナの5つです。

なお葛花（クズ）と朝顔の花（キキョウのことだと言われています）は残念ながらありませんが、「野の花の丘」にも秋の風情が漂ってきています。

春の七草のようにおかゆにして食べるのではなく、秋の七草は目で楽しむ、鑑賞する植物のようです。

萩の花（ハギ）



尾花（ススキ）



撫子の花（ナデシコ）



女郎花（オミナエシ）



